

もの言う牧師のエッセー…第3話

「 紳助だらけ 」

去る8月23日に島田紳助が引退した。私は彼のことが嫌いではない。豊富なボキャブラリー、頭の回転の速さ、感情量の多さなどはまさに特筆ものである。しかしいくら何でもレギュラー6本は多過ぎたのではなかろうか。

「日本にはタレントはいるがエンターテイナーがいない。」ということをよく聞く。ジェイ・レノやデビット・レターマンなどトークショー司会をするコメディアンはアメリカにも存在するが、その殆どが自分の名前を誇らしげに冠したレギュラー番組1本を中心に活動している。基本的にアメリカでは一部の例外を除き、タレントがCMに出たり、俳優がCDを出したりしない。それに比べ日本ではタレントはまずCDを皮切りに自伝、ドラマ、映画、CM、司会などと延々と続く。増してや紳助ほどの大物となれば何をかいわんやである。その結果日本では、ある意味では"生活の隅々にまで浸透しているタレント達"による不祥事が社会に大きな影響を及ぼす。震災前に騒がれた市川海老蔵暴行事件もそうだった。

しかし、よくよく考えてみれば彼らはいずれも「イメージを売る人間」つまりアイドル（偶像）である。私は、日本においてクリスチャンが少ない理由の一つはここにあると思う。つまりクリスチャンは"実体である神"を拝み、日本人の多くは"イメージである偶像"を拝む。古来より八百万の神を拝んで来た日本人が今に至るもなお、"ヨン様"や"エリカ様"などのイメージ=偶像の前にひれ伏す。海外でも人気のアニメキャラなどもやはりイメージである。こうなると日本はさながら「偶像文化」の観があるが聖書には、

「God created man in his own image」 (創世記1章27節、ESV)

とある。何と我々人間は神によって"神に似せて"造られたのだ。偶像などに思いを馳せなくとも実は我々こそが神のイメージであり、神は実体である。偶像ではなく実体である神に目を留めよう。そして実体であるキリストによる救いの力で成功しよう。イメージ=偶像 だけでは震災復興もダイエットも恋愛もビジネスも成功しないから。

2011-9

